

マホロバサンショウウオ *Hynobius guttatus* Tominaga, Matsui, Tanabe et Nishikawa

【選定理由】

愛知県においては、2007年にブチサンショウウオとして初めて分布が確認され、その後の分類学的な変遷を経て、愛知県を含む中部・近畿の集団には本学名が与えられた (Tominaga et al., 2019)。愛知県における分布域はきわめて狭く、隠遁的な生活を送るために発見されにくいので、生息が知られないまま、生息地が開発されてしまうおそれがある。

【形態】

愛知県産の繁殖個体の全長は雄で104~132mm、雌で81~127mm。前肢は4指、後肢は5趾。背面には褐色地に淡色の小点を有する。鋤骨歯列は深いV字型だが、従来同種とされてきたコガタブチサンショウウオと比較するとやや浅い。



春日井市, 2013年12月11日, 島田知彦 撮影

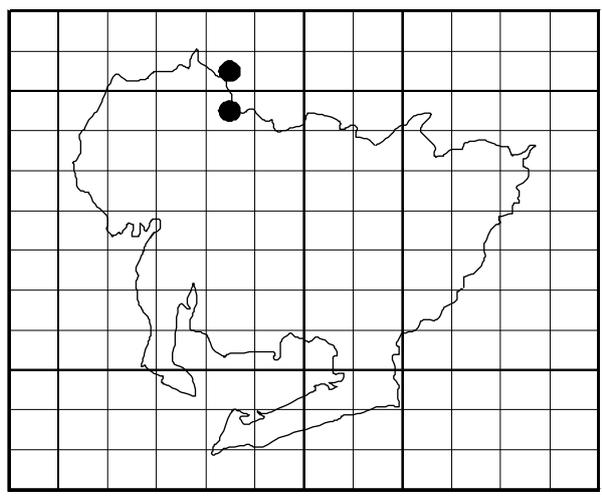
【分布の概要】

日本固有種。県内では尾張北部の丘陵部(犬山市、春日井市、瀬戸市)にのみ生息が確認されている(山上ほか, 2007)。国内では愛知県以外に岐阜県、滋賀県、三重県、和歌山県、大阪府に生息する。基準産地は滋賀県甲賀市。

【生息地の環境／生態的特性】

主に山地の渓流域に生息する。県内における生息地の環境は、標高130~210m程度の丘陵性山地の渓流域である。スギの植林地が大半を占める。一般的には沢の源流部で繁殖するとされているが、愛知県では溪畔の斜面で繁殖することが確認されている。繁殖期は4月下旬から5月下旬で、山腹斜面の土中に潜行し、伏流水が流れる地下の岩や礫に、雌が1対の卵嚢を産出する。卵嚢はコイル状で卵は1列に配列する。県内産の個体では、1腹卵数は10~21個(山上他, 2008)。幼生は摂食せずとも発生を続け、頭胴長20mm程度の幼体に変態する。繁殖期以外は林床の落葉や倒木下に潜み、小型無脊椎動物を捕食する。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

県内の生息地では、現在のところ目立った開発等はなく、生息状況は概ね良好であるといえる。森林伐採や土砂採取、林道開発が脅威となる。

【保全上の留意点】

溪流沿いが生息又は繁殖場所となっているため、砂防に係わる各種工事のほか、林道のアスファルト舗装、斜面のコンクリート化が、本種の生息環境を消失させる原因となる。

【特記事項】

愛知県は本種の分布の東限に近く、生物地理的にも重要な地域と言える。

【引用文献】

Tominaga, A., M. Matsui, S. Tanabe, and K. Nishikawa, 2019. A revision of *Hynobius stejnegeri*, a lotic breeding salamander from western Japan, with a description of three new species (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). *Zootaxa* 4651: 401-433.
山上将史ほか, 2007. 愛知県北西部におけるブチサンショウウオの分布と繁殖に関する記録. 爬虫両棲類学会報 2007: 137-143.
山上将史ほか, 2008. 愛知県産コガタブチサンショウウオの産卵場所における卵嚢と雄成体の観察例. 爬虫両棲類学会報 2008: 99-101.

(島田知彦)